令和８年度「やまなし教育創造推進事業」・「山梨県総合教育センター令和８年度研究推進校」公開研究会

個別最適な学びと協働的な学びで主体的に学習する児童・生徒を育成する

～組織でQU(WEB)・NINO・学調等のエビデンスやICTを活用した自己調整学習を通して～

山梨県道志村立道志小中学校

‘信頼性の高い標準化検査のエビデンスを活用し、
個人と集団の実態を共有し、組織で適切な教育を実践し、実証研究する’

根拠ある
適切な指導



実態把握
により
共同研究



教育成果
が
でやすい



児童、生徒、
教職員の
ウェルビーイング
の実現



働き方改革



Gemini Notebook

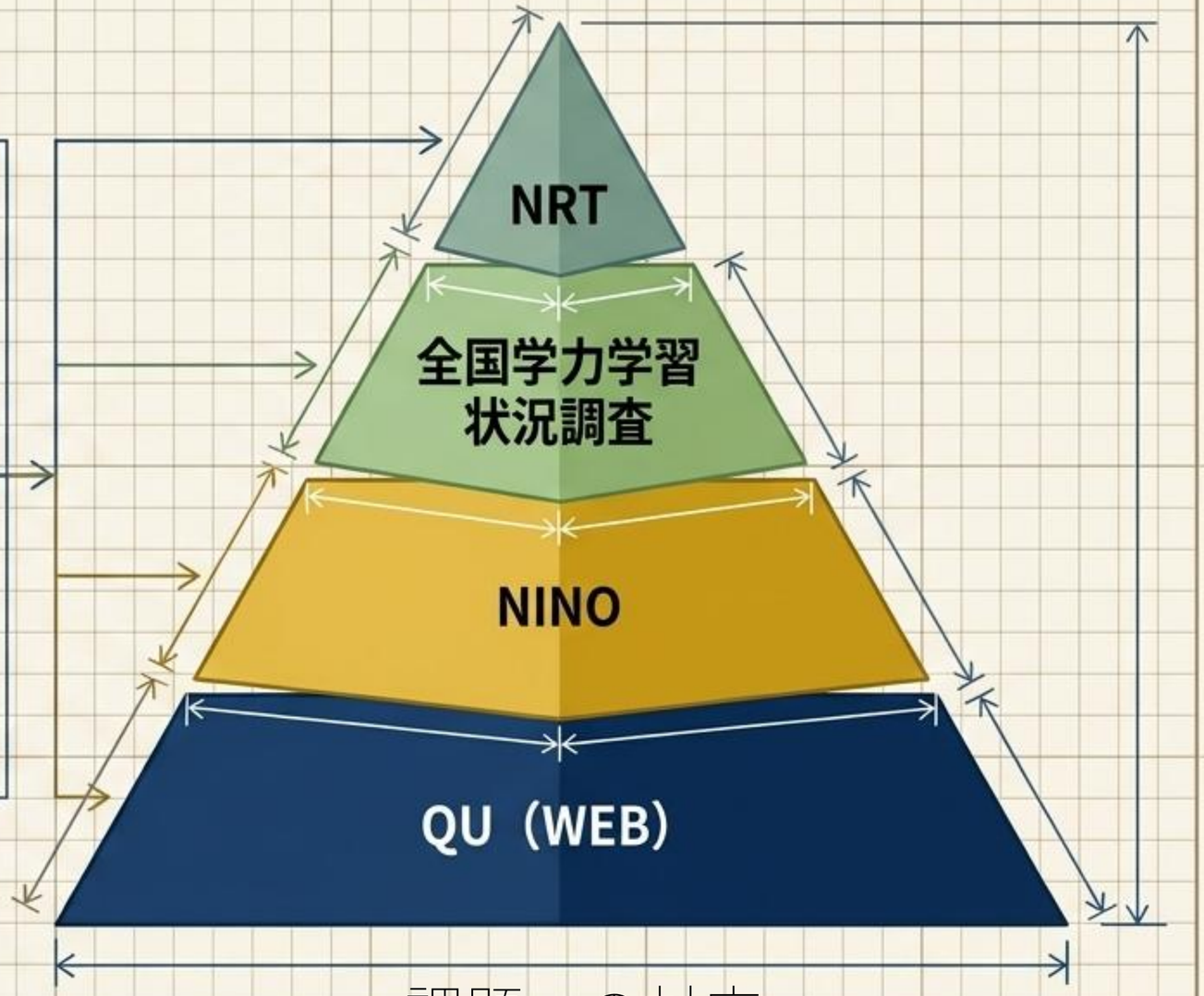
課題への対応：エビデンスに基づく教育アーキテクチャ

道志小・中学校の特徴

小規模校
→ 序列、同調と忖度、いじめ、不登校

９年間同一クラス
→ 安定した学級経営の困難さ

２年で教職員が人事異動
→ 適切で一貫した対応が難しい



課題への対応

Gemini Notebook

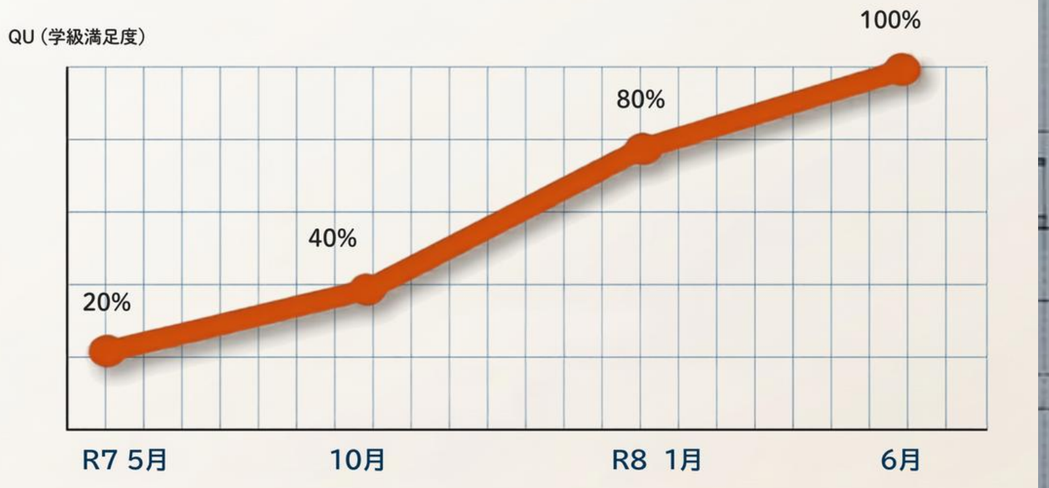
安定した学級づくりのために共有・協働実践していること

「QU(WEB) 6月のデータ結果

学級満足度全国平均

2倍以上

改善の仕方と理解の実行



Gemini Notebook

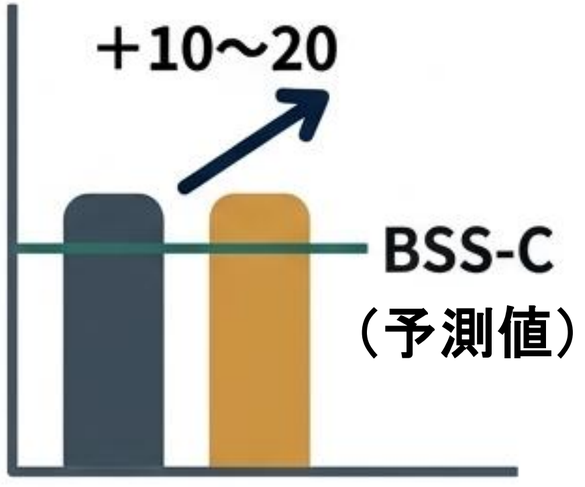
NINO・NRT・学調の成果

小学校からの指導
の継続により、

中1〜中3
全国水準



9割の生徒がバランスド
アチーバー
（実力を発揮できている）



教科ではBSS-Cを10〜
20上回る生徒も存在

NINO・NRT・学調からの課題

エビデンスに基づく課題分析

学級間の成長差



指導効果や成長の伸びに
学級間で大きな開きが生じる

QU満足度と学力

QU 満足度	100%
学力の向上	⚠ 伸び悩む

QU満足度が100%でも
期待通り学力が向上しない

学習における協働の質

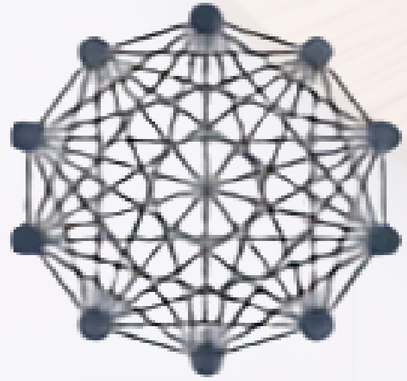
形式的なグループ学習

↓

深まりのある「質の高い協働」

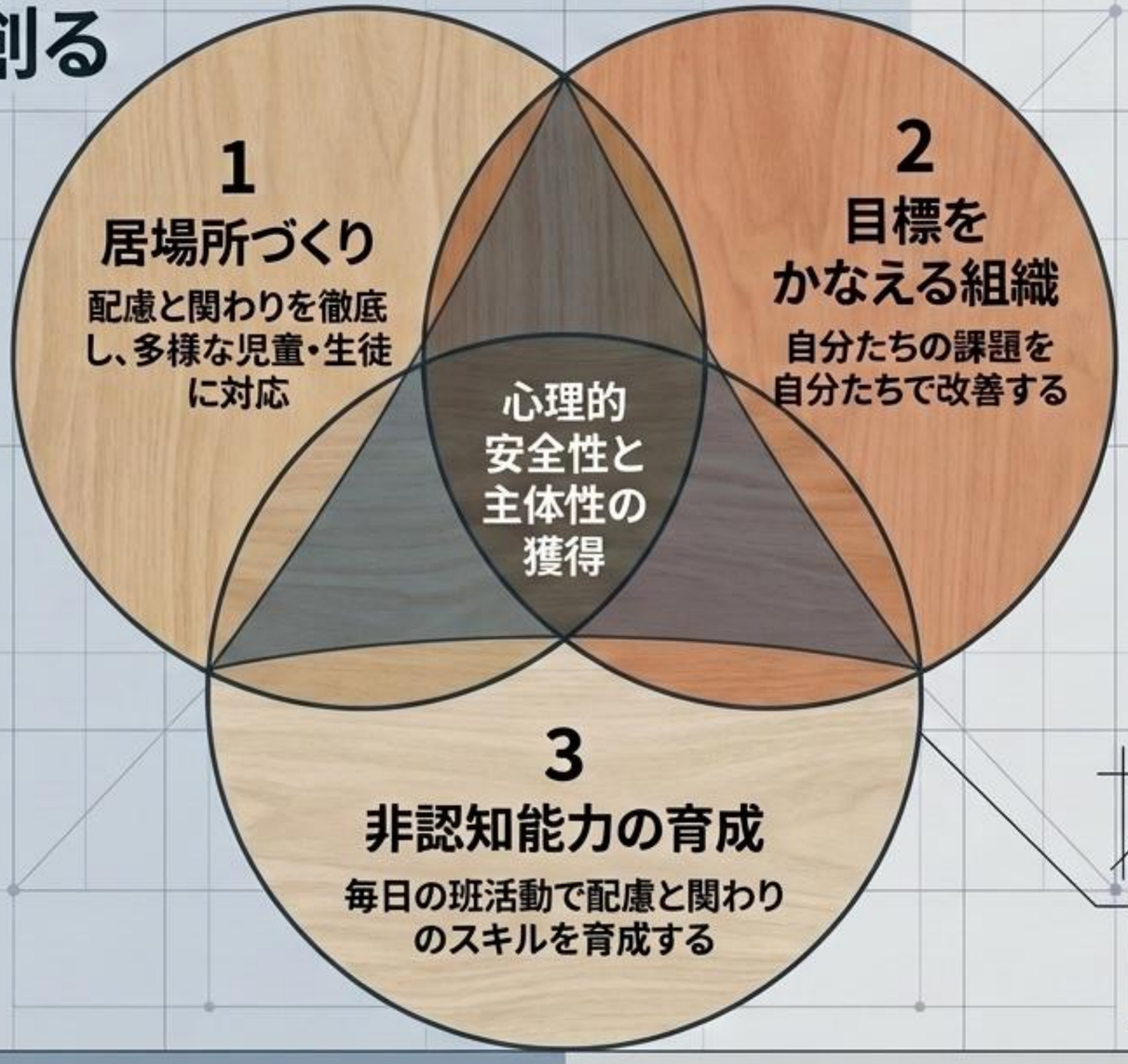
話し合いにとどまらない
深い協働的な学びへの転換

「特定の信頼」から、多様性を包摂する「普遍化信頼」へ

特定化信頼	普遍化信頼
	
同質的で閉じた集団。 他者に無関心。 「人は人、自分は自分」。固定化された権力。 仲の良い人のみで固まる。	多様な他者を尊重 目的や目標を協働して達成するための自治的集団 目的達成のために、 一人ひとりが組織としても集団を目指す。

Gemini Notebook

班の3つの機能で安定の基盤を創る



リーダーを定期的に交代し、生徒同士を「ゆるく」つなぐことで固定化を防ぐ。

Gemini Notebook

規律と承認得点の向上と非認知能力

生徒の体験から合意形成した心理的安全性を担保するルール



1. 人の嫌がることを言わない・しない
（見て見ぬふりをしない）



2. 人任せにしない
（返事と参加の徹底）



3. 孤立する人を出さない
（仲の良い人のみの固定化を防ぐ）



4. 切り替えをしっかりする
（メリハリと失敗の許容）

STEP 3: 非認知能力の獲得

STEP 2: 生徒同士の関係づくり
（協働と多様性理解）

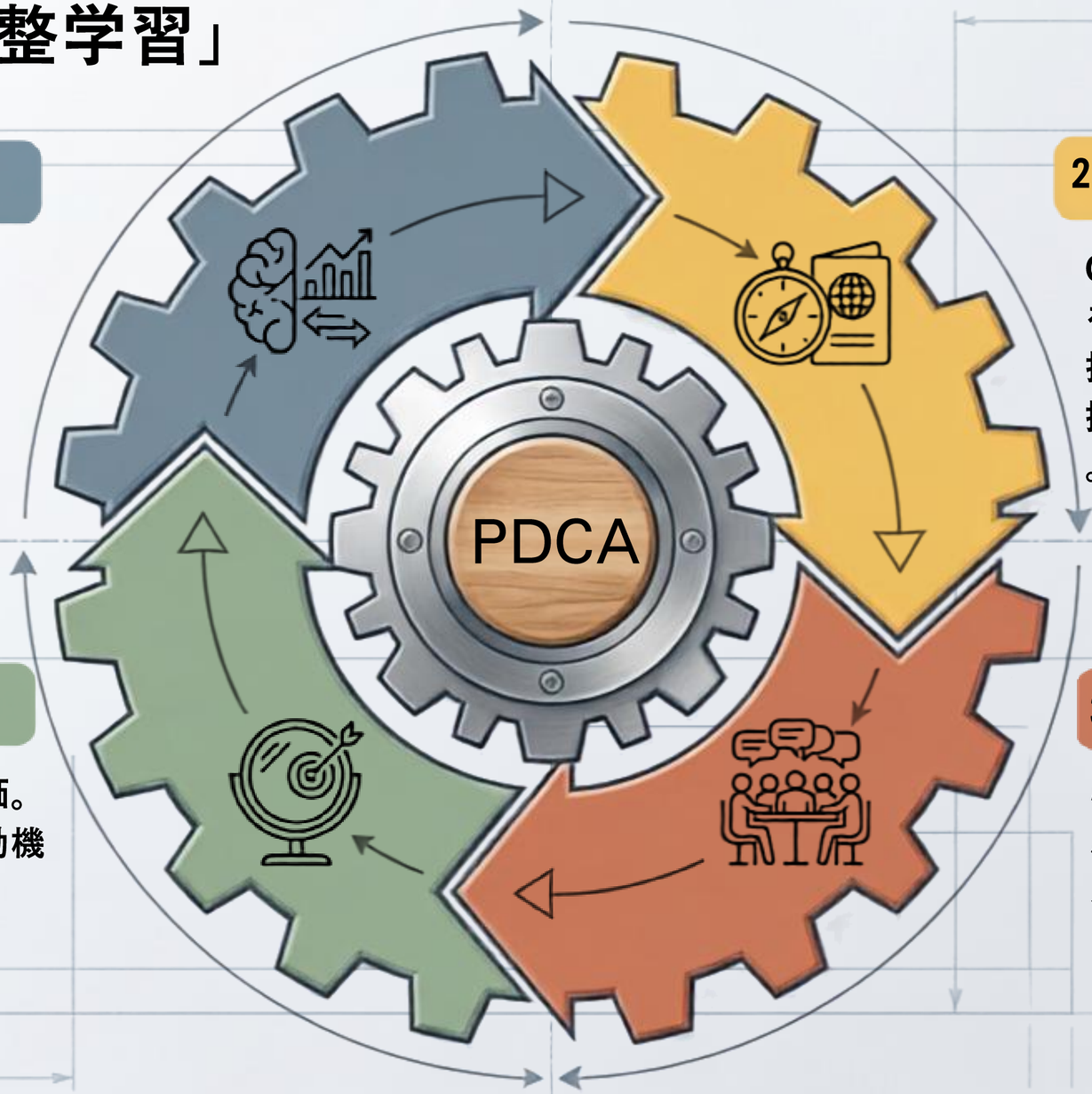
STEP 1: 先生との関係構築（自己開示と受容）

Gemini Notebook

GKPとNINOを掛け合わせた「単元内自己調整学習」

1. 自己分析 (NINO)

NINOデータを活用し、個人の認知特性（言語・処理速度など）の強みと弱みを客観的エビテンスとして把握。



2. 計画 (GKP)

GKP（学習キャリアパスポート）を活用。特性に基づき、「図表を控えて文章で表現する」など、根拠ある個別最適な学習計画を立案。

3. 実行と協働

心理的安全性を活かした自由進度学習。必要に応じて、得意な児童・生徒や教師に助言を求める「協働学習」の実践。

4. 振り返り

成果物と目標達成度の自己評価。教師が承記し、次の単元への動機付けへ接続。

Gemini Notebook

GKPを活用した単元内自己調整学習（ある生徒の実践）

データによる自己理解



言語・記憶○、
数的・処理速度△

戦略的計画



図表を避け、
文章で表現

安全な協働



得意な生徒へ質問、
班の安全網

承認と定着



努力の承認、
実力発揮

自己理解をして、自分に合った学習方法の選択、自己調整

Gemini Notebook

自分の成長のために努力・協力できる児童・生徒の育成
「根拠ある」単元内自己調整学習

【　　科　】単元名：　　NINO：◎　　○　　△　　氏名

この単元で 身につけるべき力	【知識・技能】		
	【思考･判断･表現】		
	【主体的に取り組む態度】		

単元を貫く学習課題　「　　」

学習の見通し	1(　/　)	2(　/　)	3(　/　)	4(　/　)	5(　/　)	6(　/　)	テスト実施日(　／　)・ポートフォリオの提出(　／　)
学習活動(例)							
(私の)課題設定							
学習計画							
目標についての 振り返り (教員からの指導)							
本時の評価（◎/○/△）							

★家庭学習では…

強みを生かした計画
↓
自分の考え⇔協働
↓
個と集団への指導
↓
振り返り・評価

Gemini Notebook

QU（WEBQU）・NINO（認知能力）・NRT（学力）のデータと学力を見える化して、組織で個別指導に生かす



見本

座席表の解説

1. QU状況: 孤立リスク、いじめ認知、心理的配慮の必要性をカラーで可視化。
2. NINO特性: 言語、数的、思考力、記憶、処理速度の得意/不得意をアイコン化。
3. 集団力学: 誰と誰を隣にすべきか、単元目標の達連可能性を予測。

全教員が共通のエビデンスを持ち、個別最適な指導を可能にする。

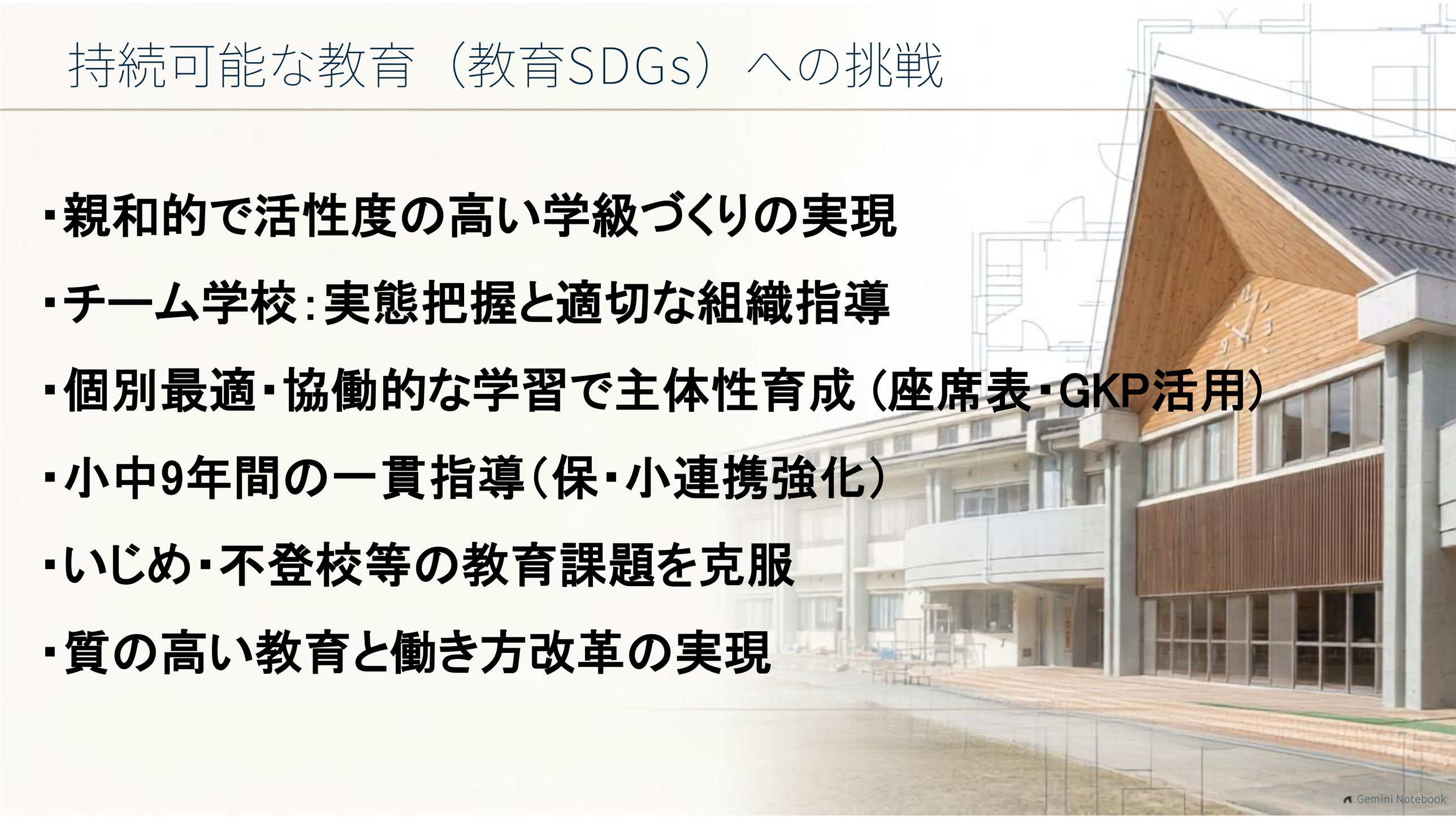
Gemini Notebook

体験を通して児童・生徒に覚えさせる
QUに関する年間計画・協働実践

月	実践内容
4月	学級づくり、授業づくり 本校2年目の岩村教諭(中)が指導主事を招いて授業実践
5月	本校3年目の新田教諭(小)が指導主事を招いて授業実践
6月	QU(WEB)調査
7月	結果を基にQU(WEB)の改善(小:規律、中:孤立)、一斉調査(小中)
8月	学級づくり、授業づくり
9月	学習指導で安定と活性化
10月	QU(WEB)調査、公開研究会
12月	QU(WEB)の改善、学習指導の改善、2学期の総括
1月	学級づくり、授業づくり
2月	QU(WEB)調査、QU(WEB)の改善・学習指導の改善
3月	年度の成果と課題、次年度の学級づくりの研修・共有

Gemini Notebook

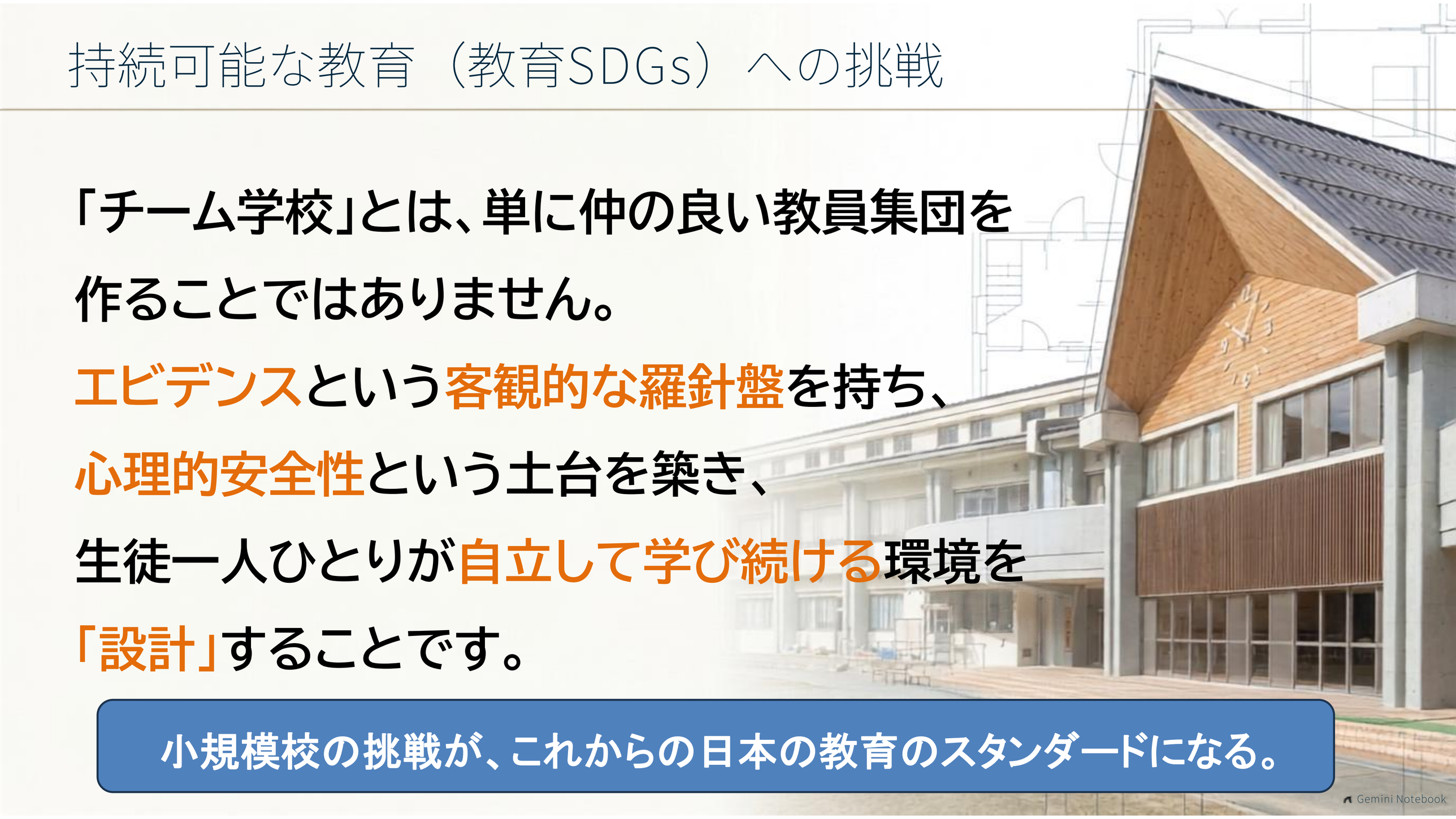
持続可能な教育（教育SDGs）への挑戦



- 親和的で活性度の高い学級づくりの実現
- チーム学校：実態把握と適切な組織指導
- 個別最適・協働的な学習で主体性育成（座席表・GKP活用）
- 小中9年間の一貫指導（保・小連携強化）
- いじめ・不登校等の教育課題を克服
- 質の高い教育と働き方改革の実現

Gemini Notebook

持続可能な教育（教育SDGs）への挑戦



「チーム学校」とは、単に仲の良い教員集団を
作ることではありません。
エビデンスという客観的な羅針盤を持ち、
心理的安全性という土台を築き、
生徒一人ひとりが自立して学び続ける環境を
「設計」することです。

小規模校の挑戦が、これからの日本の教育のスタンダードになる。

Gemini Notebook